

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000072		
法人名	医療法人 新清会		
事業所名	グループホーム 千花		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字芦北2592-1		
自己評価作成日	平成30年10月22日	評価結果市町村受理日	平成31年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

6年目となる千花は、少しずつ地域に根付いてきた様に思います。周辺には公共機関や商業施設が徒歩で行ける範囲にあります。秋の夕焼けが大変綺麗に見えます。8月の町内花火大会もホームより綺麗に見えます。高速道路の開通以来3号線の交通量も減少し大変静かな環境です。室内は完全バリアフリー、手摺りが設置されており、移動時の動線の確保がされています。裏庭には畑があり、季節の花や野菜を植えて収穫を楽しみにしています。お天気の良い日はホーム周辺を散歩、月に1度はドライブを計画しています。町内の行事にも出かけます。食事は季節の新鮮な食材を毎日買い出しに行き、職員が毎日メニューを考え、手作りで提供しています。職員は30代~50代で個々の意見を出し合い日々支援させて頂いています。千花の理念の基、思いに気付き寄り添い笑顔の花を咲かせ穏やかな日々を送って頂ける様取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

既存の建物を全面改修したホームは、民家の一軒家を思わせその造りも人々の繋がりも温かく、声かけや手引き誘導で移動する入居者と職員の表情も、実に晴れやかである。食材を見て朝から立てる献立や、入居者の表情を見てその日のドライブ先を決定したり、家庭生活の延長として、どこかの家にもある普段の暮らしが実践されている。現在運営推進会議は、年の半数を同法人の事業所との合同で開催しており、相互に取り組みを評価し、課題を見出し有識者による幅広い意見や提案がホーム運営に反映されている。リビングに輪になり、昔話(桃太郎)を聞かれる入居者の姿は生き生きとしており、話し手である職員の表情にも力と笑みがあふれ、“笑顔の花が咲く”一コマであった。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成30年11月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	タイムカードの横に貼り理念を出勤退社時声に出して読んでいる。又千花での理念も作り全職員で共有し実践に繋げるよう努めている。	出勤してきた職員は、玄関内の壁やタイムカードの所に掲示してある、法人理念やホーム理念に目をやった後ケアに入るようになっている。「笑顔の花を咲かせる」ためには、ケアにあたる職員が明るく、笑顔でいることであり、ストレスをため込まないことも重要だと話している。離職の少ない安定した職場環境の中、新年度より法人異動で管理者を務める職員は、まずは新人である自らがホームのこれまでを尊重し、職員意見に耳を傾けながら「千花」に溶けこむよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は近隣の方への挨拶は常時心掛けています。近所を散歩したり、避難訓練などお手伝いを呼びかけている。6月の1日一汗運動にも参加するようにしている。中学生の職場体験も実施。	行政関連の建物や病院、商業施設が徒歩圏内にあるホームは、開所時から地域資源を活用し、出会った人々と気軽に会話しながら生活している。1日一汗運動にはホーム前のごみ拾いや草取りに汗を流し、地元神社の祭りの出発式や入居者に馴染みの地域へドライブに出かけている。防災への意識が高い地域にあって、ホームでも訓練前の事前告知や、法人施設が一時避難所として地域貢献も果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の行事に参加し地域の方々との交流を深めている。町主催の七夕祭りには七夕飾りを出品している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度よりグループホームあしたと年に3回の運営推進会議を実施している。運営推進会議では利用者様の近況報告や他委員からの質問意見要望をきき、サービス向上に繋がっています。地域の行事等も事前に誘って頂き参加するようにしている。ヒヤリハット、事故報告によりホーム内での状況が発信できている。	以前はホーム単独で開催していた会議を、年3回地域にある同法人のグループホームと合同で開いている。合同会議により互いの情報を共有し、参加者も同時に双方の取り組みを知ることで、意見の拡充に繋がり、地域の困難事例などについても出席者の貴重な意見などもあがっている。行政担当者も資料を持参して、毎回交替で参加されるなど工夫されており、友好的な関係であることが窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	他ホームや包括、ケアマネージャーなどと意見交換や現状を聞くことでケアの向上にいかしている。	運営推進会議には役所の他、消防署の関係者も同席し、地域行政の主たる参加を得て、地域の現状を共有しながらホーム運営に反映させている。また、行政からの研修案内にできる限り参加したり、グループホーム連絡協議会での研修内容(服薬管理)をケアに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を法人の中で実施し職員全員が正しく理解し実践に取り組んでいる。玄関居室等の施錠についても身体拘束であると認識し、利用者様の状態を把握し見守りを工夫しケアに取り組んでいる。スピーチロックに関してもお互いが声かけながら注意している。	法人の「身体拘束委員会」に参加した担当職員の復講により、研修内容を共有し拘束を行わないケアの実践に努めている。職員は普段からニュースなどの実例をもとに意見を出し合い、拘束や虐待が入居者に及ぼす影響について、しっかりと認識している。管理者は職員のストレスケアについて夜勤明けの職員からゆっくり話を聞き、夜間帯に仕事が集中しない様配慮しながら、入居者への関りを最優先するよう導いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止も職員全員注意し声かけしながら防止に努めている。今後も職員全員が意識を持って取り組んでいきます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の対象者が1名おられる。今後、勉強会を実施する必要性もあると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款書の説明利用料金、重度化や看取りについて、医療連携体制、起こり得るリスクなど詳しく説明している。報酬加算料金改定時には文書を発行し個々に詳しく説明している。経済的不安に対しては個別にて対応相談に乗っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との毎日の会話のなかで意見要望不満等聴くようにしている。内容を必ず職員間で話し合い運営に反映させている。家族の面会時には必ず意見や要望を聴くようにしている。要望は職員間で共有し運営に反映させている。	家族とは家族会やプラン立案時の他、利用料の支払いや普段の面会など、関わる機会も多く、関係性も密である。職員は機会あるごとに入居者の現状や思いを伝えながら、家族意見の収集に努め、全員で共有している。一日の中に入居者と1対1になる時間を作りながら、何気ない会話から要望を引き出し、支援に反映するよう努力している。	入居者や家族の意見を知る機会として、今後は職員間で内容を検討したアンケートの実施も有効かと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士で業務検討会を行い意見を出し合い聴くようにしている。又休憩時などに気付いた点は都度話し合えるようにしている。運営会議の席で理事長・訪看主任を交え意見や提案を出し合い運営に反映させている。	業務改善会議で職員の日頃の気づきや改善点を出し合い、検討課題を法人理事長が参加する運営会議で声をあげている。職員は法人の方針で、入職を気に防火管理者を取得しており、防災への高い意識をもって入居者のケアにあたっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	常勤6名パート2名にて個々の事情を踏まえ、継続して働く事が出来ている。福利厚生 の確立職員の資格取得に向けた支援を行い取得後は職場内で活かせる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会や町主催の研修会、実践者研修等全職員が参加できるよう体制を作っている。資格取得に向けてお互い声かけし頑張っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会熊本県支部総会出席、情報交換に努めている。水俣芦北ブロック会に参加交流に努めている。同法人同志の交流など通じ質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サマリーや情報提供書にて事前に本人の思いや不安を全職員が共有し傾聴するようにしている。要望等にも耳を傾けコミュニケーションをとりながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と世間話など交え、ゆっくりと話を聞くようにしている。特に不安なこと、要望等は時間をかけ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全職員間で話し合い状況確認し、必要としている支援の提案をし他のサービス利用にも繋げていくよう努めている。相談者との十分な話し合いにも努め、代表者にも相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個々の能力に応じ家事や畑仕事等と一緒にしている。又出来ることはして頂き出来ない事を支援させてもらっている。常に笑顔で接するよう心掛け穏やかに生活して頂ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人の状態を報告相談している。疎遠になりつつある時は電話などで連絡、相談報告をしている。利用者様や家族との関わり多く待ち良い関係を築けるよう努めている。本人のお誕生日会や敬老会は家族にも参加の声かけもしている。又年に1回家族会を開催し多くの参加を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方など気軽に面会に来て頂ける雰囲気作りに努めている。馴染みの場所などに度々ドライブに出掛けている。ふる里訪問を復活させたい。	家族や知人の面会の多いホームであり、近所の方が具合が悪いと聞いて会いに訪れるなど馴染みの関係性を大切にしている。入居者の体調と相談しながらドライブ先を決定したり、昔から続く神社の祭りに参加している。また、こだわりの材料(ニッケ)を使った団子作り等入居者が慣れ親しんだ生活習慣や風習を継続したり、個々に馴染みの化粧水やシャンプーなども支援している。	管理者は以前実施していた“ふるさと訪問”を復活させたいとしており、実現が期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士出来ないことをお互い手伝われている場面を職員が見守っている。時々気分の変化にむらがある為、全職員が個々の状態を把握しながら共に楽しく生活できる様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サマリーや情報提供書にて詳しく伝えるようにしている。その後の経過を見守り、必要に応じ相談や支援に努めることを本人家族に伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が本人に聞いたり日常の会話の中から本人の思いや意向の把握に努めている。その思いを職員間で共有し話し合いケアに活かしている。時には居室でゆっくり会話することもある。	職員は入居者との普段の関りから、本人にゆっくり時間をかけて話を聞くよう努めている。中には発語困難な方もおられるが、家族の面会を喜ばれる様子や日頃の表情から思いを推察し、プランに繋ぐようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から話を聞いたり前施設などから介護サマリーや情報提供書等などにて経過の把握に努めている。暮らしの情報シートなども利用している。プライバシー保護にも充分努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックにて心身の状態把握に努めている。本人の有する力を職員が気づきチームで把握共有し家事など個々のできる力に応じ手伝って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に要望を聞きカンファレンスを開催し介護計画をたてている。各担当にアセスメントを記入してもらい意見を反映しプラン作成している。現状を把握しながら、必ず見直すようにしている。	本人・家族の意向に沿いながら、職員(特に担当者)の意見が反映できるようにしている。担当者会議には医師や訪問看護師、管理者や計画作成担当者なども参加して、医師の医療に関わる専門的見地から、入居者への関りなどを助言している。半年ごとに現状を見据えながら、プランを見直しているが、入居者の状態変化によってはこの限りではなく、必要な時点で内容を変更し、新たなプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子ケアの実践気づきなど個別に介護記録に記入し、職員間で情報共有しながら気づきや工夫を話し合いケアの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ柔軟に対応している。母体が医院である為医療との連携にて受診入院、病気の早期発見に努め、支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して暮らして行ける様運営推進会議には区長、民生委員消防署員に参加してもらい意見交換している。年2回の避難訓練には消防署Qネット、近隣の方などに参加してもらっている。H29・9月から新清会理事の参加も実施した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医院がかかりつけ医である。利用者様の状態は常に医師に報告又は訪看に相談している。又、状況に応じて専門医の受診も支援している。	全員が母体医療機関をかかりつけ医としており、ホームで受診を支援している。必要に応じて専門医の紹介が行われており、家族へ受診協力を依頼しているが、現在ホームでの対応が殆どであり、結果は同行職員が家族へ報告している。また、週1回の訪問看護を受け、入居者の健康をサポートしている。職員は異常の早期発見に努め、気になることは早めに協力医へ連絡し、指示を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックを行い、異常の早期発見に努めている。週1回の訪看来荘時状態報告し、連携、相談している。異常に気付いたら母体の医院にすぐに連絡するなど健康管理や医療支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体がかかりつけ医であり、入院時には情報提供しケアについて相談している。病院関係者と利用者様の状態なども情報交換している。入院時には家族への状態報告や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に必ず家族に意見を尋ねている。状態に変化が生じた場合にはかかりつけ医と意向確認をし対応している。又、入院が必要な場合は職員間で話し合い家族や母体のかかりつけ医、訪看などと連携し支援している。	入居時にホームの取組を伝え、その時点での家族の意向を確認している。状態に変化が生じた場合、かかりつけ医を含めてあらためて話し合いの場を持ち、家族の意向を聞きながら方向性を決定している。継続した医療が必要になれば、母体医院へ移られる方が殆どである。管理者は今後も家族の判断を大切に、ホームの現況で出来得る支援に努めていきたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修に参加している。ミーティング時に対応について不明な点など話し合いをしている。緊急時対応マニュアルを作成し見える場所に貼り実践に活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署と近隣の方にも参加してもらい避難訓練を行っている。地域の災害対策連絡会議も声かけお願いし、法人での災害対策委員会にも、協力を得ることができる。	年2回消防署の立ち合いや、近隣者の参加協力を得ながら避難訓練を実施しており、訓練の様子は広報紙でも紹介している。消防署からは運営推進会議に参加されており、訓練の助言を得ている。他の参加者からも海拔0メートルの立地であり、避難先について議題に上がっている。法人は防火管理者資格取得に力を入れており、災害対策への意識への高さが窺える。また、2ヶ月に1回防災の日を設けており、その中でコンセントの埃など細かに点検している。	災害備蓄については、水やインスタント麺、カセットコンロなどを備えており、今後はリストを作って全職員で共有されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者様1人々の事を充分理解し言葉かけや対応をしている。居室に入る際はノックをし訪室している。入所時ホーム発行の新聞に掲載してよいか否かお尋ねしている。又業務検討会にて全職員が必ず振り返り注意し合っている。	職員は入居者とゆっくり関わることで信頼関係を保ち、その方の個性を活かす支援に取り組んでいる。呼称は苗字にさん付けを基本としているが、反応の良い下の名でも対応している。また、居室はその方の部屋であり、ノックや声掛けの後入るようにしている。個人情報使用については、家族の承諾を得、職員の守秘義務の徹底についても、周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を通じ思いや希望が話しやすいような環境に努めている。食事中など顔の表情にて好き嫌いを把握している。言葉にて意思表示できられない利用者様の排泄など表情や体の動きをキャッチし支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様1人々のペースに合わせ本人の意向を尋ねながら支援している。散歩も1人々の状態に合わせて職員が個々に対応し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に相談や協力を得ながら、馴染みの理美容院の利用やホーム内にて本人の意向に沿って散髪支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備を手伝ってもらったり1人々の能力に応じ配膳下膳をして頂いている。食事形態も個々の状態に応じ提供している。	ホームではその日にメニューを決定し、鮮度の良い食材を求めて地域物産館やスーパーなどへ購入に出かけている。季節感を取り入れた手作りの食事は好評であり、形態も嚥下力などに応じて提供している。美味しい食事に加え、必要に応じて主治医や管理栄養士に相談や指示を仰ぎながら、栄養面からもサポートを行っている。入居者も食材の下ごしらえや配膳・下膳など出来ることで食への関わりを持っている。	食事に時間を要する入居者へも、異食など安全面からだけではなく、最後まで美味しく食べてもらうためにも、職員が必ず見守りにつくことが必要と思われる。取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様1人々の好みや習慣を全職員が把握している。月に1度体重測定をし増減の確認をしている。必要な食事水分が摂取できているか把握し支援している。場合により、医院の管理栄養士などに相談をしバランスのとれた食事の支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員全員が口腔ケアの重要性を理解している。利用者様1人々に応じた口腔ケアの支援をしている。夕食後義歯は消毒を毎日支援している。口腔ケアが適切に支援できているかカンファレンスにて全職員で話し合い清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。利用者様の状態に応じ可能な限りトイレでの排泄や排泄の自立の支援を行っている。個々の状況により都度検討している。	把握した排泄パターンを職員間で共有し、トイレ誘導や自立の方が継続できる環境、見守りに努めている。基本的にトイレでの排泄を支援し、個々に応じて布パンツやリハビリパンツ、オムツに尿取りを組み合わせている。スムーズな排泄が出来ず、トイレで不穩になる方にも、職員は直近の状況を確認しながら、そばで声掛けや見守りを行っている。	トイレは洗面台と同じ空間で、行き来の際や来訪者からも見える場所にあることから、使用中でなくともトイレの戸は閉めておくことが望ましいと思われる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し飲食物に繊維質の多い物を提供したり水分摂取の工夫を行っている。結果自然排便に繋がっている。日光浴や毎日の運動散歩などを通じ自然排便を促す工夫をしている。又医師や家族に相談し場合によっては緩下剤などの服用の支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の状態や意向に沿って支援している。羞恥心や負担感等を全職員が理解し都度声かけしながら、ゆっくりと入浴ができるよう支援している。冬場は入浴剤使用で温泉気分、湯冷め防止に努めている。	入浴は月曜から土曜まで準備し、体調や個々の意向、羞恥心に配慮しながら、把握した好みの湯温で週3回支援している。また、失禁時はその都度、シャワー浴も取り入れながら気持ちよく過ごしてもらえるようにしている。入浴は清潔保持や楽しみな支援でもあるが、湯温や時間など安全面へも十分配慮している。入浴剤の使用は、温泉気分や湯冷め防止、保湿にも繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人々の要望や状況に応じて対応している。日中は活動や日光浴などを促し安眠できるような支援をしている。ストレスの状態を等を申し送りにて全職員が把握し1日穏やかに過ごして頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を名前ごとに閉じ、全職員が把握出来るように支援している。状態の経過や変化を訪看に相談したりかかりつけ医に報告している。1人々の薬箱にて飲み忘れや誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般において出来ることは手伝ってもらっている。本人のペースで生活できる様支援している。季節ごとの行事や誕生会など全員参加で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中医院への電気治療へ出かけ、行かれない利用者様は散歩などの支援をしている。家族の協力にてお墓参りや自宅に外出されている。月に1度はドライブ計画を行っている。	天気の良い日は母体医院への電気治療に出かける方や、日光浴をしながら歌や体操を楽しんでいる。近くを通られる方は、その光景を見て微笑んで行かれるようである。地域の諏訪宮祭神輿行列見学や、御立岬ドライブ、花見学(コスモス・水俣バラ園他)、など地域資源も活用しながら外出の幅を広げている。墓参りや自宅への帰省など家族の協力が得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の同意の元に所持されている方もおられる。預り金の説明は入所時に必ず行い本人と家族と相談合意を得て管理している。面会時には預かりノートにて使徒と残金を確認して頂きサインをもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にていつでも電話を使用出来る様支援している。手紙やハガキが届いたら、本人様に読んで頂き、ご家族にもお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物を飾ったり行事ごとの写真など利用者様と一緒に考え意見を尋ねながら飾りつけをしている。室温も温度計を確認し調節している。居心地良く過ごして頂ける様全職員にて意見を出し合い工夫している。	リビングや玄関をはじめホーム内外は、壁面や花のプランターなど職員が工夫しながら、季節感のある共用空間が作られている。入居者と一緒に紅葉を塗り絵や切り絵で表現した壁面は圧巻であり、職員は「京都の嵐山ですよ〜！」と、会話を弾ませながら紹介を行っていた。入居者の生けた花もホーム内に飾ることで、本人にとっても喜びとなっている。また、玄関を入るとオープンな一室のリビングホールとなっており、外気も入りやすいことから室温は入居者に尋ねながら調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	後方の非常口辺りに椅子を準備をし1人で外の景色を眺めたりゆっくりできる空間を提供できる様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談し馴染みの物を持って来てもらっている。居室には本人と一緒に写真や手作りの物を飾ったりしている。装飾することを拒否される利用者様もおられるの為、相談しながら行っている。	居室への持ち込みの品については、入居時に馴染みのあるものがあると安心されることを伝えている。中には家族の写真や飾り物などの掲示を拒まれる方もあり、入居後も個々に応じて家族と相談しながら居室環境を作っている。日中もリビング食堂で過ごされる方が殆どであるが、日当たりの良い居室に戻り、窓の外を眺めながら昼食後ゆっくり休憩される方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行される方が安心して動ける様ソファや椅子を手摺りの代替になる様工夫し設置している居室も1人々の身体機能や状態にあわせ家族と相談し決定している。		